

令和4年度入学者選抜試験

帰国生入試問題

小論文 (120分)

(保健福祉学部)

注 意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、5ページあります。
- 3 解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚あります。解答用紙には解答欄以外に受験番号欄と氏名欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入ください。
ただし、得点欄と整理番号欄は記入してはいけません。
なお、解答は最初のひとマスを開けず、改行せずに続けて記入ください。
また、行末以外は句読点も1文字分として当てなさい。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 下書き用紙は、下書き等に利用してもよろしい。
- 7 試験終了後、下書き用紙及び問題冊子は持ち帰りなさい。

問題 1 次の文章は、『好循環のまちづくり！』という著書の一部です。この文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

レジリエンスを高める

「グローバル化した世界では、どんな地域も相互依存の網の目の中にありますから、地球の反対側であっても、どこかで何かが起こったら、その影響は相互依存のつながりをたどって伝播^{でんぱ}し、備えをしていない地域に大きな打撃を与えることも考えられます。そういった事態を回避することができないとしたら、地域はどのような「備え」をしておくべきなのでしょう」。これは、数年前に出版した『レジリエンスとは何か―何があっても折れないところ、暮らし、地域、社会をつくる』（東洋経済新報社）に書いた文章です。

レジリエンスとは、「外的な衝撃にも、ぼきっと折れてしまわず、しなやかに立ち直る強さ」のことです。いつ何が起こるかかわからないという、不確実で不安定な時代を生きていくためには、個人にとっても組織や地域、社会にとっても、レジリエンスが大事です。

しばらく前から、世界では生態系や心理学の分野をはじめ、教育、子育て、防災、地域づくり、温暖化対策など、様々な分野で「レジリエンス」の重要性が注目され、「レジリエンス向上」のための取り組みが展開されるようになってきました。しかし、私たちの暮らしや地域、社会のレジリエンスは強まるどころか、弱まってきているように思えます。

レジリエンスの観点で最も恐ろしいのが「衰退ループ」です。これは、何らかの理由で潜在的な回復力そのものが弱まっているところに、外部からの衝撃がやってくると、衝撃に耐えることができず、ますます回復力（レジリエンス）を失っていくという悪循環のこと。この衰退ループにスイッチが入ってしまうと、加速度的に弱化し、最終的には立ち直れずに衰退してしまうという恐ろしい状況を生み出します。今回のコロナ危機は、私たちが気づかぬうちに様々な「衰退ループ」に入っていたことをあぶり出したと言えるでしょう。

コロナ危機で明らかになった衰退ループの一つは、「多様性の低下」だと思っています。これまで、目先の効率を優先するあまり、多様性をどんどんそぎ落としてしまし

た。効率を上げるためには、「多様性は減らしたほうがよい」からです。例えば、ホテルも様々なお客さんに対応するよりも、インバウンドだったらインバウンドに特化したほうが効率的です。農家も1種類の換金作物に特化したほうが、効率的に利益が得られます。こうして、平時には効率的で利潤の大きなやり方が定着します。

(中略)

これからのまちづくりを考える上で、「短期的な効率」だけでなく、「中長期的なレジリエンス」もしっかり考え、両者のバランスのとれたまちにしていく必要があります。なぜなら、地域に対する衝撃は、今回のコロナ危機で最後ではないからです。今回明らかになった衰退ループに「喉元を過ぎたから」と目をつぶってしまうと、ますます衰退していき、次の衝撃はもっと厳しいものになってしまうでしょう。

(出典：枝廣淳子『好循環のまちづくり！』より抜粋、岩波新書 2021年)

設問1 個人のレジリエンスを高めるためには、どのようなことが必要だと考えますか。あなたの考えを200字以内で記述しなさい。(40点)

設問2 グローバル化した世界のなかで、地域のまちづくりを考えるとき、どのような「備え」が必要だと考えますか。具体的な例を提示して、あなたの考えを300字以内で記述しなさい。(60点)

注：栄養学科における配点は上記×0.25とする。

問題 2 次の文章は、『抗生物質と人間—マイクロバイオームの危機』という著書の一部です。この文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

抗生物質の冬

ある種の「不在」が、病気を引き起こす可能性は、病原性を有するといわれる細菌についてさえ、そうなのかもしれない。ヒト常在細菌の一つに、ヘリコバクター・ピロリと呼ばれる細菌がある。長くヒトに共生してきた細菌である。そのピロリ菌は消化管潰瘍や胃がんを引き起こすことで知られている。抗生物質によるピロリ菌の根絶は、消化管潰瘍や胃がんの発症を抑制する。一方で、その不在は逆流性食道炎や食道がん、あるいは^{ぜんそく}喘息を引き起こす可能性があるという。

アンフィバイオーシス（両義性）と呼ばれる、自然界ではよく見られる現象の一つである。あるいは、すべての生物は他の生物との関係で両義的なものかもしれないと個人的には思うことがある。

さらに言えば、感染症を制御するはずの抗生物質が感染症への感受性を飛躍的に高めるという重要な事実もある。「抗生物質の逆説」とも言える現象である。

通常であれば感染には数万個が必要になるサルモネラ菌が、抗生物質投与後には、わずか数個で感染が成立する。この現象は早くから報告されていた。また、1歳未満で抗生物質の投与を受けた子が、続く数年間感染症に^{りかん}罹患しやすいといった経験的印象を持つという小児科医もいる。

抗生物質が実用に付されてわずか10年。1954年にボンホッフらが発表した研究がある。研究は、抗生物質の投与が感染に必要な最小限の細菌の個数を大幅に減少させるということを示すものであった。研究は、抗生物質投与がなかったマウスの約半数が感染するサルモネラの量が約10万個であることを報告した上で、ストレプトマイシン*を1日投与したマウスでは、その量が、1万分の1にまで減少することを示した。わずか3個の細菌で感染したマウスもいた。この研究は、その重要性にもかかわらず長く忘れ去られていた。その研究の本当の意味に私たちが気付くのは、ごく最近になってからだった。

繰り返す。抗生物質の使用がいけないわけではない。抗生物質が生命に対していかに劇的な効果を示すか私たちはこれまでも見てきた。その過剰使用が問題なのである。

抗生物質の過剰使用は、耐性菌を生み出すだけでなく、使用者を他の感染症や免疫性疾患に罹患させやすくする。抗生物質耐性細菌の存在と合わせて、これを「抗生物質の冬」と呼ぶ専門家もいる。今はまだ、厳しいながらも、やり過ごすことのできる「冬」かもしれない。(1)しかしそれが、吹雪となり世界を覆うと、私たちは「ホワイトアウト」のなかで、遭難を余儀なくされる。ホワイトアウトとは、吹雪などによって視界が白一色となり、方向や高度、地形の起伏等が識別できなくなる現象である。その可能性さえ否定できない、と思う。

ポスト抗生物質時代における新たな関係を築き上げるために、私たちは、もう一度、抗生物質との関係を見直す必要がある。答えは、明らかである。抗生物質の使用を必要最小限にまで減らせばよい。すべての細菌に効く抗生物質ではなく、特定の細菌にだけ効く抗生物質を使用すればよい。しかし、そこへ至る道は容易ではない。

感染症の脅威から人々を守るための「魔法の薬」の登場の後に見えてきた世界が、健康であるためには、細菌は少ないより多い方がよいという事実の上に成立する世界だとすれば、なんと皮肉なことだろう。しかも、そうした事実^{しんし}に私たちが気付くことができたのは、抗生物質が日常的に普及することによってだったとすれば、それはあまりに哀しい皮肉かもしれない。これからの医学はこの問題に真摯に取り組む必要がある。

抗生物質使用のジレンマ

だとしても、今、私たちが抗生物質の使用を中止することはできない。それによって、間違いなく多くの生命が救われるのだから。とすれば、私たちに残された道は、その使用法を見直すことしかない。ただ、(2)医師の側にとっても患者の側にとっても、その実現は必ずしも容易な道ではない。

出題者注

*ストレプトマイシンとは、抗生物質の種類の一つである。

(出典：山本太郎『抗生物質と人間—マイクロバイオームの危機』より抜粋、岩波新書 2017年)

※漢数字を、一部、算用数字に変更している。

設問 1 下線部(1)はどのような危険性を示唆しているか、本文の内容を踏まえ、あなたの考えを 200 字以内で記述しなさい。(40 点)

設問 2 下線部(2)の容易な道ではない理由を、医師の立場と患者の立場で記述しなさい。その上で、あなたの考える解決策や意見を含め、400 字以内で記述しなさい。(60 点)

注：栄養学科における配点は上記×0.25 とする。